



田島中学校区 将来の学校を考える会 ニュース

平成30年5月18日発行 第5号

こどもの将来、学校の将来、まちの未来



生野区では、学校規模の適正化をはかるだけでなく、新たな学校での教育環境の充実、子育て環境の充実、災害に強いまちづくりを通じて、まちの活性化をめざす計画として、「生野区西部地域学校再編整備計画」を推進しており、議論のたたき台となる「田島中学校区学校整備計画（素案）」をもとに保護者・地域住民のみなさんと具体的な意見交換を進めています。

田島中学校区 将来の学校を考える会（以下、「考える会」といいます）（第5回、平成30年4月24日（火））が開催されましたので、協議内容等をご報告いたします。

第5回「考える会」で意見交換されたテーマ

- (1) 地域・PTAと連携した学校運営
- (2) 小規模校、小中一貫校のメリット、デメリット



(1) 地域・PTAと連携した学校運営について

事務局からのご説明内容

- ✓ 現在、学校運営にあたって、地域・PTA等の協力により、子どもたちに多様な貴重な経験をする機会を作っていますが、新たな学校において、そのような取組をどうしていくか、教育内容に関わるものも含め、今後各学校長および教育委員会事務局を中心に検討を進めていく予定としています。
- ✓ 検討を進めるにあたり、将来的には学校設置協議会の場で、学校・教育委員会事務局の検討経過を説明しながら、地域・PTAの方と一緒に具体的な意見交換を進める予定です。
- ✓ 今回の準備会では、これまでの地域・PTAと連携した学校運営の取組内容について、継続して残すべきもの等についての意見交換を行うため、テーマ設定をしています。

現在の取組

	田島小学校	生野南小学校	田島中学校
防災訓練	防災訓練 全学年(2月) まちづくり協議会・やすらぎ苑 ※土曜授業		
体験学習	昔遊びの会 1・2年生 まちづくり協議会	スポーツフェスティバル 全学年(10月) PTA※土曜授業	職場体験(9月) 地域事業者等
	学年集会 全学年(11月) PTA※日曜参観		保育実習(2月) 地域保育所
の地域と交流			ふれあい祭り(9月) ふれあい祭り実行委員会

※現在、学校の授業の枠組みの中で地域・PTAの協力のもと取り組んでいる学校運営の活動です。

いただいた主なご意見

(【★】いただいたご意見等 【➡】行政からの説明)

- ★ 現在地域の行事の主な開催場所は学校である。再編後も現在の学校の跡地は地域コミュニティの場として利用できるのか。
 - ➡ 大阪市の方針では跡地は原則売却ですが、生野区では基本的に防災拠点として跡地利用をします。地域での利用の可否や具体的な活用方法については現在は未定で、これから調査研究を行う予定です。皆さんのニーズを聞きながら検討していきます。



(2) 小規模校・小中一貫校のメリット・デメリットについて

事務局からのご説明内容

- ✓ 小規模校の課題としては、体育や音楽の授業でチーム数が多くできない、合唱で迫力を出すことが難しい、行事の際のバス借り上げ等の一人当たりの負担額が高くなる、クラス同士で競い合う経験をすることが制限される、クラス替えができないため人間関係の固定化につながる、若手教員が増加している中で多くのことを学び影響を受けられるベテラン教員が身近にいない、等があります。
- ✓ 小規模校の良い点としては、子どもの学習状況等が理解しやすくきめ細やかな指導が可能となる、授業等で発言する機会やリーダーを務める機会が増える、といった点があります。ただし、学級数ではなく1クラスあたりの児童数による面が大きいです。

- ✓ 大阪市では、平成23年よりすべての小中学校で「小中一貫した教育」に取り組んでおり、その中で小学校と中学校が同じ敷地内にある「施設一体型小中一貫校」を5校、道路一本隔てて小学校と中学校が隣接している「施設隣接型小中一貫校」を1校設置しています。
- ✓ 教育の観点から、小中一貫した教育を実施するうえで、小学校、中学校が同じ敷地にあることで、より効果的な教育が実施できると考えています。
- ✓ 施設一体型小中一貫校の利点を活かし、小学校教員が中学校の授業に入り、生徒のつまづきに対応するなどの教科指導の充実を図るとともに、発達段階に応じた指導方針を共有し継続的な指導を行うことができます。
- ✓ また、小中一貫校のデメリットとして、小学生と中学生の活動場所の問題などが指摘されますが、各種の工夫により克服は可能と考えています。
- ✓ 現状でも小中連携、小小連携に取り組んでいますが、小規模校のデメリットの解消に資する観点から、小学校間のさらなる交流促進に取り組む予定です。6年生以外の学年での交流や両小学校の子どもたちが混在する形での交流を検討していき、できることから取り組んでいきたいと考えています。



いただいた主なご意見

【★】いただいたご意見等 【➡】行政からの説明

- ★ 複数学級のいいことばかりが書かれている。例えば運動会について、現状は人数が少なくても教師も工夫して行っているのに一概に「迫力がない」と記載するのはいかがなものか。現状のいい面にも目を向けるべきではないか。
 - ➡ 今の両小学校の運動会に迫力がないということではなく、事務局からは一般的なメリット・デメリットを提示しています。小規模校でも工夫次第で迫力を出すことは可能ですが、この先さらに児童数が減少したらどうなるかと考え、また仮に人数が増えれば、様々な取組も可能になり、より様々な体験ができる機会を子どもに提供できると考えています。
- ★ 小規模校の課題は工夫で補えるものがほとんどで、人数が増えたら必ず良くなるものではないと思う。複数学級にしないと解決できない課題は何か。
 - ➡ 単学級の課題もありますが、小中一貫校になることによるメリットが多くあると考えています。小中一貫校では9年間通しての学習ととらえることでいわゆる「中1ギャップ」等の問題が解消しやすくなります。小中学生相互の良い影響を与え合うことも期待できます。1学年の児童数が増えると、より多様な考え方を学ぶことができ、複数学級になることで人間関係の固定化を防ぐこともでき、より子どもの個性を伸ばすことができると考えています。

- ★ 2クラスになりそうでならないという現状では工夫で問題を解決できるのでは。
- ★ 複数学級になることで解決できる課題はあると思う。男女比の偏りや行事でのバス利用が難しい等の事例を聞く。1クラスだとクラスの特性に合わない子どもが学校に行きづらくなる事例もある。学校がなくなるのは寂しいが、子どものより良い学習環境のためにはクラス替えができるようになってほしい。
- ★ 人間関係の固定化がデメリットに挙げられているが6年間一緒に過ごすことで相互理解が深まるいい部分もある。小規模校ゆえの良さはもっとあるのではないか。
- ★ まずは小小連携から進めるのがいいのではないか。
 - ➡ 大阪市としては単学級の解消が必要であり、保護者や地域の方たちのご意見を伺いながら、様々な提案をしていくべきと考えています。まずは子どもたちの相互交流から始める予定です。できることから段階的に進めていきたいと考えています。
- ★ 最初は田島小学校で再編の話だったが、いつの間にか小中一貫校の話になっている。
- ★ 当初は田島小学校地を活用した案であったが、（田島小学校は）生野南小学校の子どもにとって遠すぎることから、小中一貫校となったはず。
 - ➡ 大阪市としては5校で小中一貫校は終わりとする方針であったが、皆さんから田島中学校地での小中一貫校の提案があり、検討を進めてきたものです。ほかの区でできないことをしていきたいと考えます。
- ★ たしかに少子化や交通の利便性の関係で、子どもが少なくなっている場所である。しかしどうして生野だけ急いで話を進めなくてはならないのか。
 - ➡ 子どもが減っている中で、子どもたちにより良い教育環境を作っていくことが大切であり、新しい子育て世代が生野区に入ってくるように魅力ある学校を作っていきたいと考えます。

次回の開催について

日時：平成30年5月22日（火）午後7時 場所：田島小学校 多目的室

テーマ(予定)：学校再編後の跡地活用

- ※ 傍聴可能です。また、ご意見を述べる方(オブザーバー)も募集します。
- ※ オブザーバーは田島小学校区、生野南小学校区それぞれ4名を定員とし計8名までとします。

詳細は下記事務局へお問い合わせください。

学校再編に関する情報は生野区ホームページでも
ご覧いただけます。

生野区西部地域学校再編の動き

検索



発行

田島中学校区
将来の学校を考える会 事務局
(生野区役所 地域まちづくり課)
電話：06-6715-9920